

民生環境水道常任委員会行政視察報告書

大 島 綾

○群馬県前橋市

子ども家庭総合支援拠点について

【所 見】

前橋市では妊娠・出産から子育て時期のほぼ全般にわたる手続きや相談をワンストップで行えるようになっており、利用者側に立った配置は非常に優れたものであるため、足利市でも早急に取り入れていただきたいと思う。

例えば、足利市では不妊治療費助成に関する手続きや妊産婦検診・乳幼児検診に関する手続きは健康増進課、子どもの保育所や幼稚園の手続きはこども課、子ども・妊産婦の医療費助成の手続きは児童家庭課と、幾つもの課にまたがっている。さらに、検診や健康に関する手続き・相談に関しては、本庁舎から離れた保健センター内にある健康増進課での手続きとなり、建物自体も離れているため、利便性は著しく欠けている。

前橋市では、これらの課をまたがる妊娠から子育てまでのほぼ全ての業務を中核市に移行した9年前に保健センターの2階に集結し、「子どもに関することは全て保健センターに行けば相談・手続きができる」という形をとっており、このような体制を整え、職員それぞれの役割を明確化したことで、職員意識の向上が図られ、モチベーションの持ち方が以前より上がったとのことであった。

また、母子保健部門や児童手当・児童扶養手当などの手当て部門、さらに保育所等の入所関連部門が同一フロアに配置されていることで、容易に情報の共有が可能となっていることが大きな強みであるとともに、母子保健情報が課内の業務システムで管理されているため、児童相談所や警察からの緊急的な世帯照会の際に担当職員が不在でも対応が可能になっているそうである。

私自身、以前よりこのようなワンストップの体制が理想であると考えていたが、実際に行っている前橋市の担当の方より、現在の足利市の人員的配置は基準を満たしており、すぐにでもできるという力強い言葉をいただいたため、さらに推進を提案していきたいと思った。

○新潟県上越市

上越市クリーンセンターについて

【所見】

上越市クリーンセンターに訪問してまず目についたのが、クリーンセンター内に生活環境課が設置されていたことであった。前日に訪問した前橋市の「まえばし子ども家庭総合支援拠点」も本庁舎と離れていたが、滞りなくというよりも、むしろ業務効率が格段とアップしていると思われたように、上越市でも生活環境課が本庁舎から離れたクリーンセンター内に設置されていることによる不都合はなく、逆に本庁舎との行き来が必要ないため効率はよいとのことであった。これまでの私自身の固定観念が覆され、市民の利便性や業務の効率化を考えた場合、このような発想も十分にあり得るものであると改めて考えさせられた。

上越市クリーンセンターの整備については、これまで使用していた第1クリーンセンターと第2クリーンセンターが老朽化したことから、その代替施設として第2クリーンセンターの西側隣接地に新たなクリーンセンターを整備し、平成29年より供用が開始されていた。施設規模は2炉で24時間運用し、1日170トンの処理能力を有するもので、処理方式はストーカ式焼却方式の全連続燃焼式焼却炉を使用、事業方式は設計・建設・運用・維持管理を一括で発注するDBO方式とのことであった。

財源は国庫補助金が44億円と市債80億円の計124億円で、市債のうちの95%は合併特例債、残りの5%は県特別債とのことであった。本市では合併特例債を受けることができないため、財源の確保に苦慮するところではあると思われるが、何らかの形で国や県の補助を受けられるようにする必要があると感じた。

施設内には見学者コースに実物大のごみクレーンバケットの模型やごみクレーン操作体験装置などがところどころに設置され、体験できるなどの工夫も凝らされており、展示・学習コーナーも見学者自身が考え学習できるようになっていた。ごみの減量や環境について楽しく学べる場となるため、本市でもぜひよい工夫をしていただきたいと思います。